

動物の診察室から

0810

今年12歳になる日本犬の「不二子ちゃん」は、肝臓の機能が悪くなったため、10日に1回病院へ皮下補液に通っています。

喉に何か詰まったような咳をするようになり、病気が進行すると肺水腫を起こして死んでしまいました。

不二子ちゃんは、肝臓だけでなく心臓の具合も良くないので、毎日心臓の薬も飲んでいるので、

わんちゃんは高齢になると、心臓の左の弁膜僧

聴診すると左の胸で特

徴的な逆流性雑音が聞こえ、レントゲン、超音波検査で病状の進行具



不二子ちゃん。いつもルパン君と一緒に治療を続けるです

天国から仲間が見守る

銀のペンダント

合を知ることができま

そんな不二子ちゃんの首には、銀のペンダント

不二子ちゃんも、今年

がぶら下がっています。

不全症(MR)になってしま

年の4月にMRがわか

そして、そのペンダント

ら左心房へ血液が逆流し

り、薬を飲み始めたの

の中には小さな遺骨が入

症状はゲホゲホッと

です。

た。その子は「ルパン君」。

ルパン君は不二子ちゃんより少し若く、特に病気をすることもなく、若いご夫婦にかわいがられていました。

しかし、4年前のある日、急に具合が悪くなり

ました。診察したときには重度の貧血を起こしていました。これまでも

多くの犬の命を救ってきたルパン君が不二子ちゃんを支えているのでし

やう。

後にはじくなってしまっ

たのです。

飼い主のおねえさん

たちは、ルパン君を火葬

し、少しだけ遺骨をペンダントに入れて、仲良しだった不二子ちゃんの首にか

